

防除情報(病害虫情報 号外 第6号)

令和7年7月30日
神奈川県農業技術センター

斑点米カメムシ類の防除

斑点米の発生原因となる「斑点米カメムシ類」は、本県ではアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等が知られています。「斑点米カメムシ類」の被害は、斑点米の発生だけでなく、出穂から乳熟期に加害を受けると不稔の原因となり減収につながります。畦畔及び水田周辺の雑草の管理と適期薬剤防除をあわせて行ってください。

1 予察灯への誘殺数

県内に設置している予察灯への斑点米カメムシ類の誘殺数は6月中旬から7月中旬にかけて多く推移しています。7月第1半旬におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数は、伊勢原市で34.0頭(平成6.9頭)、小田原市で22.0頭(平成2.8頭)、アカスジカスミカメの誘殺数は伊勢原市で75.0頭(平成4.0頭)、小田原市で30.0頭(平成2.7頭)でした。

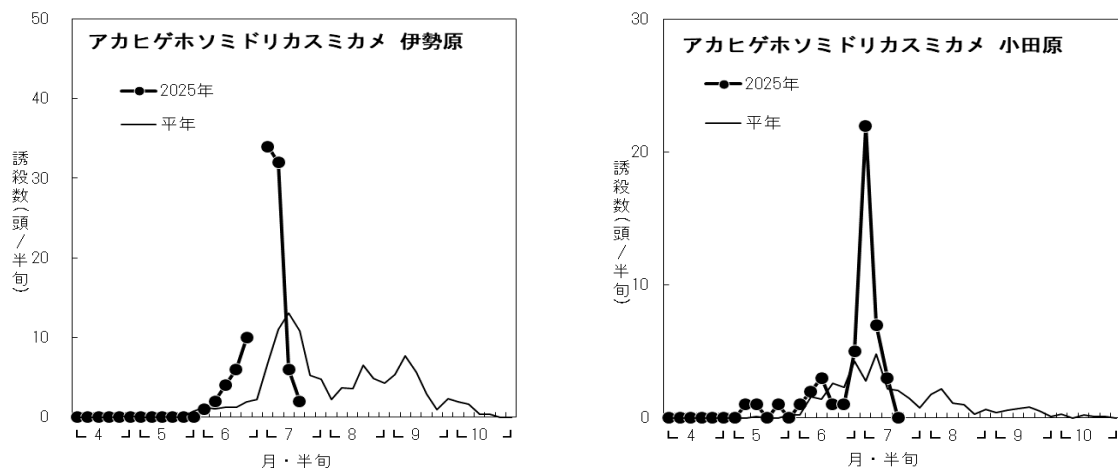


図1 予察灯へのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数(伊勢原市、小田原市)

※伊勢原の予察灯は2025年6月第6半旬は機器不良のため、欠測。

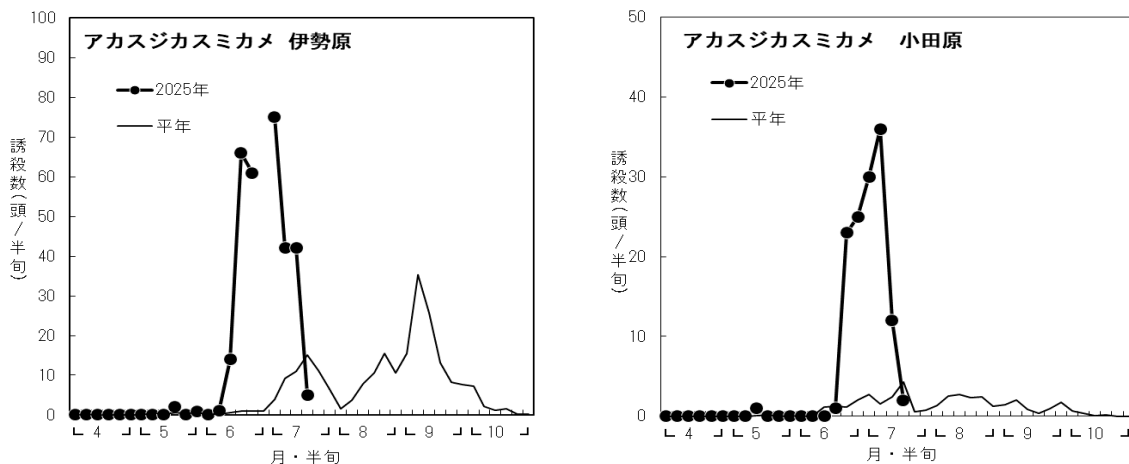


図2 予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数(伊勢原市、小田原市)

※伊勢原の予察灯は2025年6月第6半旬は機器不良のため、欠測。

斑点米カメムシ類の予察灯への誘殺数に関する最新の情報は当県のホームページをご覧ください。

「予察灯・フェロモントラップ調査結果」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/p580321.html>

2 雑草管理

斑点米カメムシ類は畦畔及び水田内のイネ科雑草で増殖するため、除草を徹底してください。草種及び発生量により適切な除草剤を選択してください。

畦畔及び水田内のイネ科雑草の管理

出穂10日前まで	定期的に除草を行い、増殖を防ぐ。
出穂10日前～収穫2週間前	イネ科雑草が出穂した場合は、斑点米カメムシ類の本田への移動を防ぐために除草を控える。
収穫2週間前以降	収穫に向けて、定期的に除草を行う。

3 薬剤防除

	1回目	2回目
粒剤	出穂7日後頃	出穂21日後頃
乳剤・フロアブル剤	出穂10日後頃	出穂24日後頃

防除薬剤例

薬剤名	IRAC コード	倍率又は 散布量(10a)	使用時期及び回数
スミチオン乳剤*	1B	1000倍	収穫21日前、2回以内
キラップ粒剤	2B	3kg	収穫14日前、2回以内
トレボン乳剤	3A	2000倍	収穫14日前、3回以内
アルバリン又はスタークル粒剤	4A	3kg	収穫7日前、3回以内
ダントツ粒剤	4A	3～4kg	収穫7日前、3回以内
エミリアフロアブル	4F	1000倍	収穫7日前、2回以内

農薬に関する情報は、令和7年7月17日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

*スミチオン乳剤を飼料用米栽培に使用する場合は、次の対策に留意すること。

- (1) 飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは粃摺りをして玄米で給餌すること。
- (2) 粃米のまま、もしくは粃殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。

気象庁が7月22日に発表した関東甲信地方の3か月気象予報では、向こう3か月の気温は平年より高いと予想され、出穂から収穫までの日数が平年より短くなると予想されます。収穫前日数が長いスミチオン乳剤、キラップ粒剤、トレボン乳剤を使用する場合は、1回目の防除適期に使用してください。

水稻の生育状況に関する最新の情報は当県のホームページをご覧ください。

「水稻の生育状況と栽培上の留意点について」

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450000/p580149.html>

4 イネカメムシについて

県内全域でイネカメムシの発生が確認されています。イネカメムシはイネ科雑草には寄生しにくく、イネを好むため、畦畔を経由せず水田内へ直接侵入します。

イネカメムシは斑点米を作り出すだけでなく、出穂直後のイネを加害し、不稔や空粃の原因となり、収量の減少につながります。

そのため、他の主要な斑点米カメムシ類と防除が異なり、薬剤中心の防除が重要です。イネカメムシとその他の斑点米カメムシ類の双方が発生した際は農薬の使用時期、使用回数に十分注意してください。

病虫害防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。